けんせつ

東京土建のホームページ　http://www.tokyo-doken.or.jp/

印刷部数11万2300部
（購読料は組合費のなかに含まれています）
（年間購読料　千八百円）
定価　五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
発行人・編集人
三木　勉

企業交渉へ現場情報を

10月25・26日に大手企業交渉を取り組みます。交渉で成果を上げるためには仲間からの現場情報が重要です。情報を支部へ寄せてください。また支部で開催する従事者会議へもご参加ください。

安藤ハザマが遺族へ謝罪

再発防止策の徹底要求

真相説明と万全の補償を

多摩テクノロジービルディング火災事故

7月26日、安藤ハザマ（建築）・日本コムシス（設備）が元請の「多摩テクノロジービルディング」（多摩市唐木田）の火災事故では、約320人の現場従事者のうち、43人が被災、5人が亡くなりました。死者の一人は足立支部の仲間です。この間、東京土建は遺族との対話をすすめ、八王子監督署交渉、安藤ハザマへ交渉、中間業者への要請を行なってきました。

涙ながらに訴える死亡した仲間の妻（中央）

【本部・唐澤一喜記】四十九日法要を終え、遺族が少し落ち着きを取り戻した9月19日、けんせつプラザ東京で元請である安藤ハザマからは首都圏建築支店常務執行役員支店長他3人、日本コムシスからは人材育成部人事部門担当部長他2人、遺族から妻・妻の姉2人・父・兄、東京土建本部より松丸中央執行委員長、白滝書記長ほか本部、足立支部の専従役員らが出席し、面談しました。

遺族・組合の要求は①正式な謝罪を求める②事故の真相を明らかにせよ③遺族への万全な補償を求めるという内容です。

冒頭、安藤ハザマ首都圏建築支店支店長より遺族に対し謝罪があり、今後については「最大限の誠意をもって対応させていただく」と深々と頭を下げました。組合を代表し松丸委員長から「遺族の思いを受け止め、遺族への万全の補償をお願いしたい。このような事故はあってはならない。再発防止策の徹底を要求する」と厳しい口調で要請しました。遺族は、事故当日の心境、まだ現実を受け入れられない現在、突然家族を奪われた残された者の悲しみ、怒り、不安を涙ながらに元請へぶつけました。

働き方は実態で判断

亡くなった足立支部の仲間は電工で労災保険に特別加入していましたが、この現場では日当で現場に入場している関係から、労災申請については、遺族・組合は労働者性が高く「実態」で判断して元請の労災保険で申請すべきと主張してきました。日本コムシスは、我々のこの主張を受け入れ、元請労災（日本コムシス）で申請することで合意しました。労働者性の判断は労働基準監督署にゆだねられることになります。

賠償に関して、安藤ハザマからの「交通事故や他の労災事故の例をみながら金額を算出していきたい」との回答に、白滝書記長は「ただの労災事故死ではない。業務上過失致死罪で警察が動いているといった酷い事件だ。過失については一目瞭然であり、誠意を示してほしい」と念を押しました。

最後に、面談は今後も継続し、遺族への一刻も早い救済と万全な補償を履行するため、継続して行なうことを確認しました。

今後の生活に対しても大きな不安を抱えている遺族に対し、東京土建は寄り添い、話し合いをすすめていきます。

遺族に謝罪する安藤ハザマの出席者

つながり深める秋の拡大

小平東村山 小平東

達成見えてきた

独自チラシを活用

前川さんを訪問する丸田さん（左端）、古澤さん（左から2人目）

行動日だけに限らず、夜だけでなく昼も、とにかく足で稼ぐのが小平東村山支部の小平東分会。分会組織部長の丸田さんによると、ただ訪問するだけでは成果は上がらないので、東京土建の様々なメリットを網羅した自作のチラシも配布しているそうです。

9月21日の夜、丸田さんは古澤副分会長と、先日1人加入させてくれた前川さん宅をお礼も兼ねて訪問し、更なる協力を依頼。センターに戻ると、様子を見に来た支部で組織部長をつとめる石塚書記長に、この日上がった成果1つを手渡しました。今月中には仲間が従業員3人を加入させてくれることになっており、目標達成が見えてきました。

北西が丘

労災利用で加入

行事への参加で対話

9月20日小雨の降る中、北支部西が丘分会の牛木分会書記長と中西常任は30代の長田さんのお宅を訪問しました。仕事から帰ったばかりの長田さんの腰に娘さんが抱きついています。牛木さんと中西さんは制汗シートなどの訪問グッズを渡しながら、分会バスハイクや飛鳥山での住宅デーなどの行事への参加を対話のきっかけにしました。

左から牛木分会書記長、長田さん、中西常任

「赤羽駅に近いところに分会センターを設けて行動日には10人弱の仲間が集まって訪問にまわります。約100人と小さい分会ですが、秋の仲間をふやす運動では労災加入希望などで新加入があり、すでに目標4人のうち、3人の成果になっています」と話す牛木さん。達成間近で奮闘する西が丘分会です。

朝やけ

■「新潮45」8月号で、自民党の杉田水脈衆院議員がLGBTのカップルには生産性がないなどと寄稿し、批判されていたのだが、今度は同誌10月号に「そんなにおかしいか『杉田水脈』論文」とする特集が掲載され火に油を注いだ。新潮社は9月21日、佐藤隆信社長名で10月号の特集について、「あまりに常識を逸脱した偏見と認識不足に満ちた表現が見受けられた」とコメントしたが謝罪はしていない。

■新潮社の本は販売しないとする書店も現れ、不買運動の意思表示をする人も出てきた。こうした対応には意見が分かれるのだろうが、「新潮45」の論調への批判がかつてないほど大きいことは確かだ。新潮社の公式ツイッターアカウントの「新潮社出版部文芸」は、「良心に背く出版は、殺されてもせぬ事」という創業者・佐藤義亮の言葉をプロフィールに固定。批判コメントをリツイートしている。新潮社は言論の自由を最大限尊重し、意見表明を統制したりしないと見解を出した。本気で社内の良心を大事にしてもらいたい。

■高校生の夏休み、夏目漱石の「こころ」が読書感想文の宿題となり、新潮文庫を買って読んだのを覚えている。そうした文芸作品を数多く出版して定評があった新潮社に、このところ批判が殺到している。